

◇平成23（2010）年12月2日 定例会質疑

No.26 灰垣和美議員

今回の機構改革は、濱田市政の2年目に当たって、前奥本市長の12年間の実績を評価して、これを前提に時代の流れ、また変化等に対応するために機構改革をするというふうには私は思いました。大いに私は期待しております。

2点、ちょっと確認をしたいんですけども。

1つは、市長の肝いりじゃないかと思うんですが、総合戦略室、特に機動政策課ですか——10月4日だったと思うんですが、新名神・交通体系等対策特別委員会で、私は、これだけ重要な施策についてはプロジェクトチームをつくって、別途議論していくべきじゃないかということをお願いしましたが、今回の機動政策課というのは、少人数ということを考えれば、先ほどの答弁でいくと、市長が指定する政策的な事項について、迅速に対応する役割を担うというような組織だとおっしゃっていましたが、その一つの政策に対して、私が申しましたような特命のチームをつくって、その政策に対応していくのかということを確認しておきたい。

それと、もう1つは、明年、団塊の世代の最終のような感じになるのでしょうか、多くの職員の方が退職されるというふうにお聞きしています。現部長、また次長級、そして課長級の方がどれだけ退職されるのかということ、そして、当然それらを踏まえた上で今回の機構改革に至ったと思うんですけども、その辺の考え方。先ほどからありました、部が2つ減り、室が減り、課が減りということを考えたら、こういったことも当然考えた上での今回の機構改革だと私は思っております。その辺の明確な考え方があれば、おっしゃってください。

以上です。

No.27 市長公室長（乾博）

灰垣議員の、2点のお尋ねでございます。

まず、総合戦略室の考え方でございますけども、議員仰せのように、スピード感を持って重要な政策案件に重点的に取り組むため、プロジェクトチーム的な対応を想定しておりますところでございます。恒常的には、少数の職員配置を考えておりまして、事案に応じて、その都度、規模や参加部署、あるいは人材を編成してまいりたいと考えております。

このような対応によりまして、市長が指示する政策につきまして、初動的な対応や方向づけを迅速かつ集中的に行い、政策財政部と密接な連携を保って施策の推進を図ることを想定しておりますところでございます。検討された事案の一定の方針や枠組みが整理された段階で、政策財政部あるいは所管の部におきまして、取り組みの具体化や、施策の推進に向

けた調整、事業部門との必要な調整、指示などを行った上で、効果的な事業展開を図ってまいりたいと考えておるところでございます。

次に、管理職の退職等に関するお尋ねでございます。本年度、来年3月に定年退職を予定している職員数につきまして、まず、部長級の職員につきましては、現在、15名中11名が退職予定でございます。それから、次長級につきましては、21名中8名が退職予定でございます。課長級の職員につきましては、35名中12名が退職予定ということでございます。ご案内のとおり、本市は昭和40年代の人口急増に伴う中、急速な発展、さまざまな行政需要に伴い規模を拡大してまいったところでございます。職員構成におきましても、当時採用された団塊の世代の職員が多くを占めておりまして、その結果として、現在、急速な世代交代と人員構成の変化に対応した組織づくりが求められていると考えております。

今回の機構改革の検討に当たりまして、これらの状況を踏まえた上で行ったものでございますので、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

No.28 灰垣和美議員

機動政策課ですけれども、プロジェクトチームのようなものを組んで対応していくということですが、外部識者の方とかも、そこにやはり参画をしてもらうとか、また——市長も民間からの登用ですけれども——民間の方にも参画をもらうということも考えていくべきじゃないかということ、これは意見として申し上げておきます。

そして、今回、スリム化云々という理由で機構改革をされるわけですけれども、環境を変えるのは、これは一つの方策ですが、先ほどもありましたが、最終的に事務を行うのは人ですから、これもそのモチベーションといいますか、それらはやっぱりすべて市長の情熱、または熱意というか、代表質問でもこの点は申し上げましたけれども、よし、市長がこう言っていると、だから我々は頑張ろうというような、そういった思いがどうしても必要になってくると思います。

もう1年、例えば初心者マークもとれるわけで、24年度スタートに当たって、ぜひ市長のその思いが伝わるような政策運営をしていただきたいということをお願い申し上げます。

以上でございます。